

【児童への話】

3月も中旬に入りました。今年度の学校生活は、残り10日程になります。一日ひとつ成長できる、大切な10日間にしてください。

今日は、「東日本大震災」についてお話しします。

今日は3月11日、13年前の2011年に東日本大震災が起こりました。テレビやお家の人の話でよく聞いていると思います。お亡くなりになったり、行方不明になったりした方は、合計22,000人を超えています。これは千代田区に住む人の数の3分の1に当たります。地震の規模の大きさがよく分かりますね。日本は大陸プレートが重なり合い、火山がとても多いので、マグニチュード6.0以上の大きな地震がいつ起きてもおかしくありません。調査によると、地球の歴史上、大きな地震の20%近くが、この日本の近くで集中して起きているということです。

毎月、学校で行っている避難訓練は、大きな地震がいつ起きても正しく行動できるようにするためのものです。校長先生は、番町小の皆さんの誰にも、ケガや痛い思いをしてほしくありません。普段からしっかり訓練し、自分の身を安全にできるよう、これからも頑張っていきましょう。

今日は、「東日本大震災」についてお話ししました。これから表彰をしたあと、委員会活動の発表集会を行います。

【本講話について】

小学校は12歳までですので、現在、東日本大震災を体験したことのある小学生はいません。あれほど大きな震災の記憶も、何もしなければ風化していつてしまいます。後世を生きる人々が正しく知り、教訓にしていかなければなりません。

ご家庭で震災時の話を子どもたちにしていただき、当時の家族は大変な思いをしたのだということを伝えていただくことが、一番の安全教育です。子どもたちの未来を守るためにも、経験した大人の話をお聞かせあげてください。